

# 令和3年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 上級調理経営学科・調理師科

## 令和3年度学校関係者評価委員

### ■保護者

岩崎 愛 様 上級調理経営学科 岩崎 優 君 保護者

### ■企業関係者

増井 徹 様 (株)中島屋ホテルズ 取締役 経営管理本部  
副本部長 兼 総務部長

### ■他校関係者

高橋 渉 様 中央歯科衛生士調理製菓専門学校  
調理製菓総合学科 教員

## 1. 教育理念・目標

| 【自己評価結果】  |                             | 平均 |
|---|-----------------------------|----|
| 1   | 教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。     | A  |
| 2   | 教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。 | A  |
| 3   | 教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。 | A  |
| 4   | 組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。      | B  |
| 5   | 鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。   | A  |
| 【現状の問題点】  |                             |    |
| 教育目標の到達度ををはかるため、クレド活用の見直しや浸透に新たな取り組みが必要   |                             |    |
| 【改善のための方策】  |                             |    |
| 年度初めに全体に説明し、さらに現在の活用を継続することで学生への浸透を促します。  |                             |    |
| 【関係者評価】   |                             |    |
| ・ 企業でもクレドを読み上げ理念を行動に移せるよう取り組んでおります。<br>本校でも継続して取り組み今後の効果を期待したい。<br>・ 卒業後社会にでて学校の取り組みを振り返り離職や、活躍で初めて評価する事が出来る。 |                             |    |

| 2. 学校運営  |                            |    |
|--|----------------------------|----|
| 【自己評価結果】   |                            | 平均 |
| 5  | 目標を達成するための事業計画が策定されているか    | A  |
| 6  | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。  | A  |
| 7  | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。 | B  |
| 8  | 就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。    | A  |
| 9  | 組織内の連携は適切に図られているか。         | B  |
| 10   | 上司の指示は適切にされているか            | B  |
| 11   | 上司は提案を受け入れてくれているか          | B  |
| 12   | 職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。   | B  |
| 13   | BSCIは適切に活用されているか。          | B  |
| 【現状の問題点】   |                            |    |
| 全体的に組織運営に関しての評価が下がっている。業務の効率化や情報の共有はGoogle Workspace等の活用で以前よりも進んでいるが、更に工夫する機運の高まりがある。                              |                            |    |
| 【改善のための方策】   |                            |    |
| Google等のアプリに対して以前より活用が進んでいる。新しいものに対して、前向きに取り組みが出来る体制を整えていく。  |                            |    |
| 【関係者評価】  |                            |    |
| ・コロナ禍で学生にも職員にもリモートや情報共有のシステム化が急激に加速し、効率がでている。また学生ともコミュニケーションツールや授業を進めて行く上でさらに活用をすすむと予測するが、対面とリモートでの効果的な事を考え活用していく。 |                            |    |

| 3. 教育活動  |   |    |
|--|---|----|
| 【自己評価結果】   |   | 平均 |
| 14   | 授業評価の実施・評価体制はあるか  | A  |
| 15   | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                    | A  |
| 16   | 資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。                                    | A  |
| 17   | 資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。                                | A  |
| 18   | 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | A  |
| 19   | 目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。                          | A  |
| 20   | 職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか                            | B  |
| 20   | シラバスは十分に検討し作成されていたか。                                    | A  |
| 21   | シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。                             | A  |
| 22   | 教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか                              | A  |
| 23   | 十分に余裕を持って教育行事の準備が来ているか。                                 | B  |
| 24   | 学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。                            | A  |
| 【現状の問題点】   |   |    |
| 概ね教育内容に関しては自己評価が高くなっている一方で、コロナ禍で中止または参加見送りになった研修があり、能力開発が思うように進まない年度であった。個々の担当科目だけでなく、全体として有機的につながりを持った教育を実践できるように俯瞰した視点でカリキュラムを見るようにしたい |   |    |
| 【改善のための方策】   |   |    |
| コロナ禍の為、研修は少なかったが次年度の計画は立てられている。各個人でも学びたいことや、取り組みたいことを積極的に出し、教員の能力のさらなる向上に努める。  |   |    |
| 【関係者評価】  |   |    |
| ・ 対面での研修は中止となったが、リモートでの研修参加は出来ていた方もいる。<br>職場は閉塞的で視野が狭くなってしまったため、引き続き希望する研修へ参加をし技術、知識向上に務める。  |   |    |

| 4. 学修成果   |                |    |
|---|----------------|----|
| 【自己評価結果】  |                | 平均 |
| 26  | 就職率の向上が図られているか | A  |
| 27  | 退学率の低減が図られているか | B  |
| 【現状の問題点】  |                |    |
| コロナ禍で求人票が減る中、就職率、質ともに高いレベルを維持できた。また、卒業生に対しての求人サイトも開設するなどの取り組みもあった。今後は在校中だけでなく卒業後も転職や学び直しの支援ができるよう取り組みたい |                |    |
| 【改善のための方策】  |                |    |
| 退学者への日ごろの対応、指導についてアプローチを各教員が対応していく。適した職員を配置し、対話する行事をつくり、時間をとります。  |                |    |
| 【関係者評価】   |                |    |
| ・ 話やすい環境作りと各学生に適した職員を配置し対策を取りました。<br>また少人数での食事研修等企画をし学生、職員共にコミュニケーションを取りやすい環境を作り取り組み今後も継続して取り組んで行く。     |                |    |

| 5. 学生生活支援  |  |    |
|--|--|----|
| 【自己評価結果】   |  | 平均 |
| 28   | 学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。         | A  |
| 28   | 各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。        | A  |
| 29   | 防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。 | A  |
| 30   | 進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。               | A  |
| 31   | 中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。         | A  |
| 【現状の問題点】   |  |    |
| コロナ禍の中で例年よりも悩みを持つ学生が多かったかもしれない。早い段階で学生との対話ができるよう、担任以外の教職員も含めた取り組みを更に検討したい  |  |    |
| 【改善のための方策】   |  |    |
| 各教員の担当などに分け過ぎず、教職員全体で学生に関わる必要がある。カウンセリングシステムを気軽に申し込めるようにする必要がある。昨年からはじめたなんでも相談のような学生が気軽に話したい先生に相談できる環境を整える必要がある。 |  |    |
| 【関係者評価】  |  |    |
| ・学生と職員の距離感や個々の学生に合わせた職員を配置し話易い環境、気軽にカウンセリングを受けられる様促し悩みや考えている事を聞き出し対策をる事を更に整えて行き、気軽に相談できる様整備していく。                 |  |    |

| 6. 教育環境   |                                  |    |
|---|----------------------------------|----|
| 【自己評価結果】  |                                  | 平均 |
| 33  | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | A  |
| 【現状の問題点】  |                                  |    |
| 今年度は大型教育機器備品の導入はなかったが、既存の機器を十分に活用できている  |                                  |    |
| 【改善のための方策】  |                                  |    |
| 2～3年を予想して計画的に機材の購入を考える。業界の変化に伴い、必要な設備を提案する。                                   |                                  |    |
| 【関係者評価】   |                                  |    |
| ・社会へ出てからも対応しているような器具や設備が整っている。但しは破損や買い替えも行っている為、改めて器具の扱いや使い方を引き続き説明していく必要がある。 |                                  |    |

| 7. 学生の受け入れ募集  |                                      |    |
|---|--------------------------------------|----|
| 【自己評価結果】  |                                      | 平均 |
| 34  | 学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。 | A  |
| 34  | 入学案内(パンフレット)には志願者が必要とする情報が掲載されているか。  | A  |
| 35  | 体験入学の時期、回数、内容は適切か。                   | A  |
| 36  | 入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。                  | A  |
| 【現状の問題点】  |                                      |    |
| 令和4年度生募集では上級調理経営学科に定員を超える入学志望者があり、調理師科も過去最高の入学者数となった。体験入学はコロナ禍で制限があったが、状況に応じた対等ができていた                   |                                      |    |
| 【改善のための方策】  |                                      |    |
| 継続して募集活動に臨みたい。  |                                      |    |
| 【関係者評価】   |                                      |    |
| ・ 社会への出口に対しての学校の取り組みを説明する中で、学生視点や職員からの視点の説明を行う事によって卒業後に自身が目指す夢や目標のイメージする事が今回の結果に繋がっていると考える。引き続き取り組んで行く。 |                                      |    |
| 8. 財務   |                                      |    |
| 【自己評価結果】  |                                      | 平均 |
| 38  | ・ 中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか       | A  |
| 39  | ・ 学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか | A  |
| 【現状の問題点】  |                                      |    |
| 管理職が予算執行状況の共有と収支バランスの把握をできるようにし、更に無駄なく教育資源として投入できるように検討したい  |                                      |    |
| 【改善のための方策】  |                                      |    |
| 食材や消耗品、備品などの購入情報を、データとして残し次年度に繋げられるようにしていく必要がある。  |                                      |    |
| 【関係者評価】   |                                      |    |
| ・ 食材などの原材料や備品の値上げに対して複数社より見積もりをとり、企業によって強い物品を把握し発注を行う。また予算と収支のバランスを把握し無駄をなくす。                           |                                      |    |

## 9. 法令等の遵守

| 【自己評価結果】 |                              | 平均 |
|----------|------------------------------|----|
| 40       | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか   | A  |
| 40       | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか        | A  |
| 41       | 個人情報保護法を遵守しているか。             | A  |
| 42       | 各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。 | A  |

### 【現状の問題点】

ハラスメントの啓蒙が進まなかった1年であった。個人情報保護と併せてより教職員教育が必要

### 【改善のための方策】

具体的にハラスメントの事案は無かったが実際に起こっていたかが把握できていない。相談できる体制があることは学生に伝えております。

### 【関係者評価】

意識が高くなっている為引き続き取り組んでいきたい。